

間脳・下垂体疾患センターの紹介

間脳・下垂体疾患に5つの診療科が連携して診断・治療へ

間脳・下垂体疾患センター センター長 松浦文三

間脳・下垂体は、頭の中でも奥の方にある領域です。この領域の疾患は、子どもの頃に発症することもあり、さらにこの領域はホルモン分泌などを担っていることから、産婦人科的な症状や泌尿器科的な症状が出ることもあります。そのため、内分泌内科と脳外科、小児科、産婦人科、泌尿器科という5つの診療科で構成されたのが間脳・下垂体疾患センターです。

間脳・下垂体疾患は、下垂体神経内分泌腫瘍などの腫瘍性疾患、下垂体炎などの炎症性疾患、下垂体卒中などの血管性疾患の診断、および機能の亢進や低下を伴うために機能診断が必要になります。治療に際しても疾患自体は内分泌内科や脳外科、機能異常については産婦人科や泌尿器科の診療科を超えた連携が不可欠なため、センターが関連する診療科を統括することでシームレスな治療体制を整えました。間脳・下垂体疾患の症状は様々なので、一度センターにご相談ください。この疾患の多くは難病指定になっているので、難病支援の申請推進はもちろん、患者さんの日常生活や社会生活を積極的に支援していきます。



間脳・下垂体疾患センター
ホームページ



前回掲載記事
肥満症外科手術認定施設

TOPICS

ふれあい看護体験

令和6年6月12日～13日

今回は、済美高校の生徒約30名が看護体験を行いました。学生からは、看護師という職業についてより深く理解できたという感想をいただきました。



ボランティアいきいき会の表彰

令和6年7月4日

いきいき会は、患者さんが安心して治療を受けられるよう、当院でボランティア活動を行っています。今回は特に貢献頂いた7名へ感謝状を贈呈しました。



編集後記

間脳・下垂体疾患センターでは、ホルモンの分泌異常による疾患を専門に、複数の診療科が連携して診療を行っています。また、新任教授の今後の抱負についても併せてご一読ください。



広報委員会委員長
熊木天児

今月の表紙

間脳・下垂体疾患センター
診療の様子

INVITATION

EHIME UNIVERSITY HOSPITAL 愛媛大学医学部附属病院 広報誌

77

AUTUMN 2024

地域医療を守る医師の育成と技術発展へ 教授が描く未来図

- 01 | 肝移植、進行・再発がんに対する集学的治療の推進
- 02 | 臨床・研究の両面から医療に貢献できる麻酔科医の育成
- 03 | 地域と共に、炎症性腸疾患における幅広い診療・研究・教育
- 04 | 内視鏡手術における器具開発を通じて負担の少ない治療へ
- 05 | 間脳・下垂体疾患に5つの診療科が連携して診断・治療へ



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111 (代)

情報発信中！



愛媛大学医学部附属病院
ホームページ



医学部及び附属病院
Instagram
(2021年2月1日開設)



杉山隆病院長がパーソナリティを務めるラジオ番組
Dr.杉ちゃんの「ウィークエンドクリニック」
(2021年4月3日スタート、毎週土曜17:30～FM愛媛)

新任教授紹介 1

肝移植、進行・再発がんに対する集学的治療の推進

肝胆膵・乳腺外科学講座 教授 榎田祐三

専門分野は、肝臓・胆道・膵臓疾患に対する外科治療です。前任の岡山大学では、肝移植やロボット手術、そして進行・再発がんに対する拡大手術を行ってきました。進行・再発がんにおいては、がんの遺伝子変異に着目した遺伝子解析・Precision medicineの研究を行い、積極的外科手術とゲノム診療を基軸とした集学的治療を展開してきました。愛媛大学でもこうした活動を継続し、外科医として最前線に立ちつつ診療科・部門横断的なスクラムを組んで、愛媛県のがん治療の“最後の砦”として奮起していきます。また、四国地方における肝移植中核施設としての責務を全うし、肝胆膵ロボット手術を推進していきます。

研究では、肝胆膵外科の中国・四国地方の広域臨床研究コンソーシアムを設立し運営しています。これからは、愛媛大学の基礎研究部門とも連携して、愛媛から全国と世界に向けた情報発信とエビデンスの創出を目指します。また次世代を担う外科医の確保と育成は重要課題です。魅力ある外科トレーニングプログラムを構築して、地域・地方の外科医療を守り、全国と世界を視野に活躍できる外科医を育成していきます。

肝胆膵・乳腺外科学講座
ホームページ

PROFILE

うめだゆうそう◎1999年 鳥取大学医学部卒業。西条市立周桑病院にて初期研修、岡山大学病院、米国ネブラスカ大学にて肝胆膵外科、肝移植・小腸/多臓器移植の修練。岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器外科准教授、肝胆膵外科診療科長を経て、2024年4月より現職。座右の銘は「至誠惻怛」。

寄附講座「地域消化器免疫医療学講座」の紹介

地域と共に、炎症性腸疾患における幅広い診療・研究・教育

地域消化器免疫医療学講座 教授 竹下英次

地域消化器免疫医療学講座では、主に潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患についての診療・研究・教育を行っています。当講座の活動は、愛媛大学だけでなく、サテライトセンターである西条市立周桑病院でも行うことで、愛媛大学内と学外、基礎研究と臨床研究、そして教育と全方位に幅広く行えることが特徴となっています。現在、炎症性腸疾患の病態に関しては不明な部分も多く、治療も発展途上です。また若い年代が多く、治療と社会生活の両立に悩む患者さんが多くいらっしやいます。こうした患者さんたちの悩みの解消を目指し、QOL 評価を含めた追跡研究や、頻繁な内視鏡検査による身体的負担を軽減すべく、代替となるバイオマーカーの探索等の研究の他、診療では両立支援にも力を入れています。患者さんでお困りの際には是非ご連絡下さい。

これから当講座として最も注力したいことは、炭酸脱水酵素 I (Carbonic anhydrase I: CA I) に関する研究です。CA Iの研究は、潰瘍性大腸炎に対する安全な治療のための新規治療薬として、さらには免疫疾患全体への応用が期待できると考えています。

地域消化器免疫医療学講座
ホームページ前回掲載記事
地域消化器免疫医療学講座の設置

PROFILE

たけしたえいじ◎1996年愛媛大学医学部卒業。第三内科に入局、県立中央病院、県立北宇和病院、2005年大学院卒業後は、松山赤十字病院、市立宇和島病院を経て当院へ。消化器内視鏡診断・治療が専門。趣味は洋楽を聴きながらドライブ

新任教授紹介 2

臨床・研究の両面から医療に貢献できる麻酔科医の育成

麻酔・周術期学講座 教授 西原 佑

私は臨床と研究の両面において活躍できる人材の育成を目指していきます。臨床では一般的な麻酔だけではなく、小児の麻酔、心臓血管外科の麻酔など、より高い専門性も身につけてもらいたいと考えています。そのために、国内留学も推奨します。研究では若い世代の医師にも研究を推奨し、将来的にチームリーダーとして研究を主導できるような、次世代の育成に力を入れていきます。私自身、これまで臨床だけではなく、神経系における研究を続けてきました。医局員には、大学院で研究を学び、さらには海外留学で自分の知識や技術を磨いてもらいたいと思っています。このように医師であると同時に医学者として、さまざまな側面から医療に貢献できる人材を育成します。

また県内の麻酔科医は増えてきていますが、まだ手術の需要に対しては足りていません。中予地区でも手術まで数か月間も待たせてしまうケースもあります。将来、どの地域であっても、そして、合併症や重症で難しい患者さんであっても、愛媛の人たちが安心して県内で手術が受けられるよう、麻酔科医として環境を整えていきます。

麻酔・周術期学講座
ホームページ

PROFILE

にしはらたすく◎2005年香川大学医学部卒業、入局。米カリフォルニア大学留学、愛媛大学大学院医学系研究科麻酔・周術期学講座准教授等を経て、2024年4月より現職。専門は神経免疫。趣味はテニス。座右の銘は“真難は成事にあらず”。

寄附講座「先進消化器内視鏡開発学講座」の紹介

内視鏡手術における器具開発を通じて負担の少ない治療へ

先進消化器内視鏡開発学講座 教授 森 宏仁

私の研究内容はESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）の普及と、NOTES（体表面に傷のない軟性内視鏡手術）における全層縫合器の開発・製造です。前任の香川大学ではKagawa LECS Projectという産官学医工連携によるデバイスの開発に取り組んでいました。一昨年に日本製の縫合器（ゼオスーチャー M）を販売。ゼオンメディカル社の協力を得て、8年を経て完成したものです。この縫合器の優れているところは先端のV字アームによって縫合糸でトライアングルを作り、それを締めることで貫通のリスクを回避しながら縫合を行うことができます。加えて、ESD後の筋組織の縫合にクリップ式の縫合器を組み合わせることで死腔を防ぎ、術後の入院日数の短縮にもつなげる研究や、逆流性食道炎を投薬ではなく括約筋のゆるみを縫合によって改善する研究も同時に取り組んでいます。本学では、外科の腹腔鏡手術と内科の内視鏡手術、どちらの臨床も経験してきたからこそ、その橋渡しをする革新的先進内視鏡の研究や開発に取り組めます。また、胃がんの全層切除手術における縫合法の臨床研究にも取り組んでおり、研究会の運営も行っていきます。

先進消化器内視鏡開発学講座
ホームページ

PROFILE

もりひろひと◎1996年徳島大学医学部医学科卒業。香川大学消化器・神経内科講師・客員教授、聖マリアンナ医科大学消化器肝臓内科客員教授を経て、2024年4月から現職。専門領域は消化器内視鏡学。趣味は総合格闘技、筋トレ、ギター。座右の銘は、一期一会。